

会 議 録 (要 旨)

会 議 の 名 称	平成30年度第1回浅口市行財政改革推進懇談会		
開 催 日 時	平成31年2月8日(金) 13時30分から15時15分		
開 催 場 所	浅口市役所 第一会議室		
出 席 者 及 び 欠 席 者	<p>【委員出席者】 中村良平会長・井上邦男副会長・佐藤正人・森山政子・亀高照夫・ 定金章・柏原淳・山内悦子・奥慎二・筒井由紀子・妹尾義信・ 小野隆久</p> <p>【欠席者】 なし</p> <p>【事務局】 秋田裕企画財政部長・富田直弘政策課長・ほか政策課2人</p>		
傍 聴 の 可 否	傍聴可能	傍 聴 者 数	0
会 議 次 第	<p>1 開 会</p> <p>2 委嘱状交付</p> <p>3 市長あいさつ</p> <p>4 会長・副会長選出</p> <p>5 議事</p> <p style="padding-left: 40px;">(1) 第3次浅口市行政改革プラン「平成29年度実績」</p> <p style="padding-left: 40px;">(2) 第3次浅口市行政改プラン改定「事務事業追加」</p> <p style="padding-left: 40px;">(3) その他</p> <p>6 閉 会</p>		
問 い 合 わ せ 先	<p>企画財政部政策課</p> <p>電話番号 0865-44-9013</p> <p>〒719-0295</p> <p>岡山県浅口市鴨方町六条院中3050</p> <p>e-mail:seisaku@city.asakuchi.lg.jp</p>		

発言者	内 容
	<p>【開会】 13 : 30</p>
事務局	開会、委嘱状交付。
事務局	続いて、浅口市長 栗山康彦が挨拶をさせていただきます。
栗山市長	<p>参集の礼。合併後間もなくから、行政改革大綱を策定し、その具体的行動計画である行政改革プランにある改革に取り組み、将来負担の軽減や財政基盤の強化に努めるなど、一定の成果を上げてきた。しかし、合併による普通交付税の特例措置の10年間が終わり、5年間かけて2桁に近い億単位の交付税が減ってくる。追い打ちをかけるように、公共施設の老朽化、耐震化、7月の豪雨災害、すべて国が賄ってくれるわけではなく多くの市の予算が必要となっている。さらに、少子高齢化、扶助費の急激な増大に対応するため、徹底した行財政改革をしないとはならないが、市民の皆さんは総論賛成、各論反対、頭を痛めている。しなしながら、やらなければ浅口市の存亡に関わる問題であると認識している。今日は皆様方の率直なご意見を聞かせていただきたい。</p>
事務局	<p>市長は他公務のため、ここで退席させていただきます。次に、会長及び副会長の互選に移らせていただきます。浅口市行財政改革推進懇談会規則第5条では、懇談会に会長及び副会長を置き、委員の互選により定めると規定されている。皆様、いかがか。</p> <p style="text-align: center;">（事務局一任の声あり）</p>
事務局	<p>それでは、中村委員に会長、井上委員に副会長をお願いします。ここからの進行は中村会長をお願いします。</p>
中村会長	<p>行財政改革というと皆さん予算を下げることを思い浮かべるが、それも一つの方法。しかし、資料を見ておわかりのとおり、市民の方々の意見を汲み上げ、いかに行政運営を効率化していく中で、無</p>

	<p>駄なものは省いていこう、というスタンスで行財政改革は行われるものである。頭から予算を削ったり、カットでは、やる方もさみしい感じがする。できるだけ、まちづくりとしてふさわしい行財政改革のあり方を皆さんで議論していただき、これはあった方がよい、これはやめてもよいなど必要なものを採択していただき、活発な議論をお願いする。</p> <p>それでは、議事（１）第３次浅口市行政改革プラン「平成２９年度実績」について事務局から説明を求める。</p>
事務局	議事（１）について説明。
小野委員	２６番の職員提案制度の実施、５件中、１件の採用ということで、残り４件は不採用だったのか、それとも継続審議中だったのか。また、採用となった１件の内容は。
事務局	１件が正式な採用、２件が一部採用、残り２件は不採用。一部採用は、提案そのままではなく、その中の一部若しくは少しやり方を変更して、実施できるというもの。採用となった提案の内容は、図書館の雑誌・新聞のスポンサー制度。図書館の雑誌、新聞を市内の企業等を買っていただき、そのかわり、購入いただいた新聞、雑誌のカバーにその企業等の宣伝を入れるというものであり、経費節減につながるもので、現在実施に向け準備しているところである。
小野委員	５件というのは正直少ないのではないか。そのあたりの認識はどうか。
事務局	多いときには、１０件とあるが、５件というのは少ないと認識している。事業がマンネリ化しているということもあり、次年度以降、提案が増えるよう、何かやり方を変えていこうと考えているところである。
定金委員	その関連で。私自身ある企業で提案担当をやっている。現在職員は何人いるか。

事務局	職員は約275人。
定金委員	パートの人も入れてか。パートは職員提案ができないのか。
事務局	パート、いわゆる非正規を入れて約500人が職員提案のできる対象人数。
定金委員	<p>だったら非常に少ない。どこと比較しているのか分からないが、こういったことこそ民間と比較して。例えばJFEは年間、何億。社員の意見を大事にして新製品開発、コストダウンをやっている。またSONYの提案制度、一回は不採用となりました、しかし5年後に見直し、今の時代だったらこれすごいよねということでピックアップして、提案者をプロジェクトマネージャーという例もある。市も優秀な職員がいるのに、なんで知恵を汲み上げられないのか、また、少ない原因どこにあるのか、言っても仕方がない、聞く耳をもたないのか、そうであるのならば、そういった職場の風土を変えていかなければ行政経営はできない。行政レベルで見るのではなく、もっと民間を見て参考に。5件は本当にびっくりした。行政改革をしようと思うなら、まずは職員の意識を変えないといけない。住民参画、住民協働とのコラボレーションと言ってはいるが、職員自らが努力している姿を見せて、それを見て市民もやらないといけないと思う。意識を変えていかないと、やるのは市民ではなく職員、やはり風土の問題を変えていかないと、会議をしても意味がない。これは意見。しっかりなぜと詰めてもらいたい。民間は賞金を出してる、これもひとつの得策。職員を大事に、職員をもっと有効に使ってほしい。行政改革の根本。</p>
事務局	<p>いわれる通り、職員の意識改革は行革の芯になるものと認識している。風土という話もあったが、まちづくりを考えていく上で、金額の削減という数字だけでなく、このまちをいかによくしていこうという視点と、市民の声をいかに取り入れて協働の中でつくり上げていくかという総合的な視点だと考える。職員提案の数が少ないのはもちろん努力する。行政の中だけで考えるという視点でなく、市民と話をする中から生きてくるもの、民間や他の自治体の方と交流するなど刺激がない中、環境がどうも内向きになっている。大綱に</p>

	<p>「市民が実感する行政経営」を掲げているので、今日のご意見はもとより、もっとまちへ出て行って、現場で市民の声を聴いて、いかに取り入れていくか。風土を改革していきたい。</p>
定金委員	<p>職員提案の審議をどのようにしているのか分からないが、ひとつの提案として、審議する中に民間の経験者を入れる。まったく視点の違う人を入れる。民間ばかりがよいとは言えないが、中だけでは変わりにくい。</p>
事務局	<p>審議は市幹部で組織する行政経営会議という内部審査で行っている。賞金・賞品は行政では難しいと思うが、風土を変えていくため、外部人材も必要と感じた。</p>
定金委員	<p>意識を変えるのは大変難しい。しかし、意識が変われば行動が変わる、ぜひ頑張ってもらいたい。</p>
奥委員	<p>28番の公共施設の有効活用で、貸し出せているのが、支所の2箇所と資料には書いてはあるが、実際に貸し出せるのが何箇所あって、どのようになっているのか。宣伝とか、貸し出すということをあまり見たことないので、どのように進めているのか。</p> <p>次に29番の市営駐車場について、市の駐車場はかなり空いている、民間は満車なので、仕方なく市の駐車場を利用する。もっとうまく活用できないか。同じようにしたら文句がでるのかもしれないが、柔軟な運用で空いているところをうまく使えないか。また、利用率は何パーセントなのか。</p>
事務局	<p>まず施設の有効活用について、耐震工事ができていない施設は貸出ができない。2つの旧給食センターも空いているが老朽化で利用できない。他にも利用ができず、活用できてない施設は多くある。金光支所は、他にシルバー、社会福祉協議会、寄島支所は社会福祉協議会が利用している。まだ両支所とも空きがある。今後、広報等も踏まえながら活用を図っていきたい。</p> <p>次に駐車場の利用について、金額は一時預かりで、1時間以内は無料、1～2時間で100円、以後1時間ごとに50円ずつ増していく。民間を利用すると1日300円というところもあり、市より安</p>

	<p>いので、そちらを市民の方が多く利用される。そのため市の駐車場は一時預かりのスペースが空いてしまうので、利用率の高い定期駐車場を増やしたというのが趣旨である。しかしまだ多くの空きがあるので、今後更なる増設を考えております。</p> <p>しかし、難しいところがあり、民間より市役所が料金をあまり安くしてしまうと、民業圧迫となってしまうので、その辺りの値段のバランスが難しい。今後も利用状況を見ながら、定期区画の増設等検討したい。</p>
<p>奥委員</p>	<p>老朽化しているところはそのまま貸し出しを行えないのであれば、それこそ売るのがか、そのあたりの話を聞かせてほしい。</p> <p>駐車場の料金は安くできないのであれば同額というにはできないのか。</p>
<p>山内委員</p>	<p>その件について追加で、公共施設の有効活用では広報が足りないと思う。リサイクルセンターの一部、消費生活で利用していた施設については売却が決まったと聞いているが、金光の旧幼稚園のボランティアセンターとして利用していた施設は、耐震工事はできないので活用されていない。しかし、大きな駐車場はある。リサイクルセンターは売れた。こういったこともうわさでは聞いただけ。精通した人は分かっても、一般の市民は知らない。広報が足りない。一般の市民の方にも、今度ここを売却するという情報がほしい。広報活動が少し手ぬるい。広く周知した方が、市外の方からも声がかかりやすいのではないか。耐震工事をしていない施設を貸し出すことは無理とは思いますが、そうであるならばできるだけ早く情報を流さないといけない。</p>
<p>事務局</p>	<p>まず公共施設の有効活用について、支所は空いているところもあるので、笠岡学園や中国銀行へ貸し出ししている。他にも小さい部屋が空いてはいるが、機材が入っていたり、空調が壊れていたりして、すぐに貸し出せない状況もある。そこを直すと費用もかかるので、費用対効果も考え、方向性を持ちながら活用していきたい。施設の売却・有効活用の状況などについては、言われるよう確かに広報が弱い。一般市民に向けとして、広報紙に行政財産の活用は載せていない。業者向けでPRを行っているので、やり方が地味・質素になっている。HPは活用しているが分かりにくいし、見れない方</p>

	<p>もいるので弱いと言える。</p> <p>売却については、普通財産とした場合は売っていきこうということになる。価値を試算して、周辺の区画等を確認したうえで問題なければ売却となる。しかし不動産の価値以下で売ってしまうと問題。公共施設は市民の財産であるので、適正な価格、入札という制度を使って売却となる。財政課が担当していて、入札情報をHPには掲載しているが、それだけでは弱いので、角度を変えて、PRのやり方、いろいろな媒体、機会を設けて、多くの方に知っていただけるよう今まで以上に力を入れていきたい。幸いリサイクルセンターは3千万円程度で売れた。市の収入となる。順序よく売却していきたい。</p> <p>市営駐車場の料金については、ここでは決めれないので、今後の課題とさせていただく。</p> <p>亀高委員</p> <p>国も行政改革をやっている。もうひとつの柱は国会改革をしている。この大綱・プランには議会改革が入っていないが、入れるべきではないか。</p> <p>大綱には、市民の満足度、市民の目線とあるが、議員は市民の選挙で付託されて選ばれたのだから、市民の目線で議会活動はされるべき。議会の特権で何をやってもいいんだ、こういったことをやると議会に対する市民の信頼がなくなる。例えば去年の9月、定数が当時1人欠でしたが18人、今年度の4月から定数を2人減で16人にする。その時に、議員報酬を細かいところは別として5万円あげる提案に3分の1が反対、17人中、6人反対。また、定数が減っていない段階の10月からやる。事務局に聞いて分かったが 実際総額はプラスアルファになっている。こういったことが、行財政改革全体の経費を節約しながらやっていくということに関して、市民の目線にたって議会運営をやっているという面では非常に問題である。</p> <p>したがって、行財政改革をやると同時に議会改革をしっかりと2本柱のひとつとする。市民の声に基づいてその種の案件は決めるべき。5万の増額の採択はアンケート調査をすれば市民は99.9%は反対する。議会の暴走、パッションと どこへ行っても言われる。せめて議員定数が2人減った時にやるべき。予算を計上しているということは税金を使っている。上に立つ方がやられる。市民か</p>
--	--

	<p>らみてもいい気持ちはしない。議員特権だから何をやってもいいということではない。</p> <p>2つめとして、そのような報酬を上げる場合は年金受給者と若い人を区別すべき。65歳以上と40歳代は違う。なり手がいない、立候補者が少ない、若い人が議員になっても飯が食っていけないという声が多い。そうであるなら、ある程度の市民目線にたった報酬の増額はあろうが、全部一律に上げるのは非常に問題がある。区別すべき。</p> <p>3つめは議会事務局と市の行政事務局との一体的な構造を作る必要がある。歯止めをかける。議会が言えば、発議すればなんでもできるんだ、市は何も言えない。このようなことではなく、良識をもって、市民もなるほどと思えるよう、議会改革を行財政改革の柱に据えていただきたい。</p>
井上副会長	<p>今言われたことは半分以上納得している。特権、ひとつは住民の方から選ばれた代表者なので権利があるが、やっていいこと、悪いことがある。今回の報酬の件についても基本条例では市長諮問機関の報酬審議会にかけなさいということになっているが、それにも関わらず、やってしまった。それは賛成した人にどうしてやったのか聞いてもらった方がよいが、私はおかしいと思うから反対をした。おかしいという意見を市民から上げていただきたい。私はそう思っている。</p> <p>議会改革はやっている。全員協議会といって議員みんなで話し合う場があるが、今年度の10月から自由に傍聴できるようにした。少しずつこれからもやっていく。</p>
亀高委員	<p>議会報告会というものはなくなったのか。去年はしたと思うが。</p>
井上副会長	<p>報告会は去年やってからしていない。理由は今までずっとやってきても来られる人が少ない。少し考えなおそうと、1年間どういう方法でやっていくか、調査・研究して今年はやろうかと考えている。しかしやり方については議員の中でしたい人だけでやってくれ、私はしたくないという人もいる。そういったことになっている。</p> <p>年金の話が出ましたが、議員で年金をもらっている人は、年金を7～8割カットされているので、そこは理解いただきたい。</p>

筒井委員	<p>38番各種団体等補助金の見直しで、交通安全母の会補助金名の後に括弧して寄島とあるが、市になってこういった団体はひとつになったのではないのでしょうか。</p> <p>わざわざあるというのは、3つに分かれていて今回は寄島ということでしょうか。</p>
事務局	<p>市内でひとつになっている団体もあれば、ここに上がっているよう、別々で活動されていて、別々に補助金を出している団体もある。この度の、交通安全母の会（寄島）については、会員が減となったので、補助金を削減した経緯があり掲載している。</p>
定金委員	<p>人材育成全般で言いたい。資料には載っていないが若年職員の退職率が非常に高くなっているのではないかと、どれくらいいるか。</p> <p>なぜこんなことを聞くのかというと、メンター制度もここにはあるが、退職率が高い組織は何かがおかしい。何かは分からないが、聞いた話で若年が多くやめる、確か他の市町村へ行った、それって組織上大きな問題。昔の公務員は退職しない。今は意外と退職率が高い。若者だけの問題ではなく、組織、人財の財は財産の財、こういったことに関係してくる、一度調べてもらい</p> <p>退職率が高い場合には、例えば人事異動。民間の話をする、人事の係がするが、君はどこに行きたいというものをまとめて本人納得の上で希望を聞いてやっている。市役所は知りませんが、プランニングで所属長・現場長がしっかりと意見を言って、部下が将来どのような方向を向いて、将来どうしていけばよいのか、人事戦略・成長戦略をもって個々にプランニングしてやらないと組織そのものが弱体化するのではないかと。大体市役所は3年から5年でごっそり変わる。市民課にいた人は税務課に、また他のセンターにいたりする。異動は別に構わない、市役所はオールマイティな人を作らなくてははいけませんから。しかし企業はこれをしません。弱体化になるから。どうするか、分けるんです。</p> <p>将来こいつをマネージャーにしたいというときはルートを作ってやる。人事戦略。ここにずっといてエキスパートを作る。そういった戦略がある。市役所は見る限りそんなところに入ったの、希望したのということがあつた。市役所は人事戦略としてはどうなのか。個</p>

	<p>人の育成戦略。そのことが結果的には若年退職の軽減につながるのではないか。人材育成は研修だけではぜったいにできない。評価制度であり異動制度であり、メンターの制度などすべてが生きて、はじめて成り立つ。イコール研修だけでは人材育成はできない。知識は賄えるが、ではマインドはどうする。それは日々の上司とのかかわり、若しくは住民とかかわる中で、公務員としてのマインドができあがってくる。</p> <p>それをどうやって育てていくかという戦略がないと、人材育成は研修だけというのは違う。今市役所がどうしているのか分からず話している。今の人材育成制度をもっと検討すべき点があれば見直してほしい。民間は育成しないとたない。退職率が高いのは要注意。民間の知恵をいただいて、いい組織・いい運営を行ってほしい。</p> <p>コミュニティ推進協議会の副会長をしているが、コミュニティ推進協議会でチャレンジトーク、今年はまちをどうしていきたいかという団体の発表がある。こんな大事な会に市役所の職員が何人来ているのか、一度調べてみて下さい。あまり知った人を見ません。これこそ市役所は本当に市民の声を聞いているのか。チャレンジトークは本当に貴重な実践の場であり、市民の皆さんは大変な思いをして発表の準備をしている、涙ぐましい努力をしている。やっぱり職員も出て行って学習するというスタンスは必要ではないか。住民は市役所職員が何人来ているか見ている。やらすばかりで、市役所職員も本気になっていないのに、市民ばかりがやれるかという気になる。どれくらい呼びかけをして、どの程度把握しているのか。例えば税務課の職員は知っていますか。課のばらつきはすごくあるのではないか。これは感ですが。戦略的に各課の代表で総務委員会をつくって徹底していかないと、特に意識改革は徹底できないのではないか。大綱に「市民が実感する行政経営」これにはまず職員の意識改革があって、次に市民が相まってこれで協働ができるのではないか。できれば参加してほしい。</p> <p>私達も一生懸命やっている、職員も来るのは特定の間。姿勢を見せないと市民はついてこない。ぜひ参加してほしい。要望</p>
事務局	<p>人、人材（財）、職員の意識改革が出ました。若年層の早期退職はここ数年の話で、昔はほとんどありませんでした。採用した合格者も、入らず辞退するような時代になっている。いろいろな背景はあるのだが、職員の見方・考え方が変わってきたことは事実ある。心</p>

	<p>身の故障で辞めざるを得ない人もいる。よって市役所だから公務員だからずっと務めるのではなく、入ったときのケア、メンター制度、異動希望調査・人事評価もやってはいるが、仕組みだけではなく、上司と部下、部下と上司、フォロワーという言葉もありますが、よい人間関係をしっかりと市役所の組織の中に作っていくことは、地域社会を作っていく過程と同じなので、入った職員が若いから難しいということではなく、結果が市民に届くわけですから、明るい職場、元気な職場を作っていきたい。</p> <p>チャレンジトークについては、地域をよくしていこうとしている人々が集まっている会ではありますので、苦労とか考え方を職員が聞くということは必要ですので、職員が出ていないということは反省すべき点なので、しっかりと中で考えて、当日少しでも多く参加するようにしていきたい。</p>
<p>定金委員</p>	<p>楽しみにしている。</p>
<p>筒井委員</p>	<p>満足度という点で、公共施設を利用しようとした場合の満足度、変えてほしいという点は、健康福祉センターが月曜日休みで会議室・調理実習室などが使えない。職員はセンターの中で仕事をしているので、利用しても費用はかからないとは思いますが、それでも休みということで使えない。月曜日が使えるともっと有効になる。うまく市民の声を聞くということであれば、若者アンケートだけでなく市民全般でこういったことがあれば満足度があがるというようなことを聞くことがあってもよいのではないかな。</p>
<p>事務局</p>	<p>アンケートにつきましては、市の全体計画、総合計画を作る際には一般の市民の方2,000人を対象として幅広くアンケートを行っている。少し先にはなりますが、次の総合計画を改定する際にはアンケートを行う。</p> <p>健康福祉センターの開館については、公民館も同様に月曜日休みで、その他の施設を含め、議員からも要望がでており、ここでできますとは言えませんが、研究させていただきたい。費用だけでなく建物のメンテナンス等、閉館日も必要なこともありますので、考えてさせていただく。</p>

<p>柏原委員</p>	<p>チャレンジトークは市役所の職員に参加してほしい。岡山市のこのような団体の発表会、それに参加した時には、国会議員から市議会議員、ほとんどの方が来られていた。グループ討議の時には私の横に国会議員や市議会議員がおられて話を聞いている。浅口市のこのような会に市議会議員の皆さんが来られていることがほとんどない。実際にはこのような会に来ていただき、市民の方がどのような苦労があって、どういった活動をしているのか、直接見てほしい。それが市のいろいろな政策に活かされるので。チャレンジトーク、市役所の職員はもちろんですが、多くの市議会議員にもお越しいただけたら。期待している。</p>
<p>井上副会長</p>	<p>私はほとんど参加していますが、みんなと相談して、こういった意見があったことを全員協議会で話しておく。</p>
<p>森山委員</p>	<p>支所がなくなる、商工会もなくなる。支所は職員が全然いなくなるのか。</p>
<p>定金委員</p>	<p>何人か残る。</p>
<p>森山委員</p>	<p>何人か残るのならわざわざ鴨方まで来るというのも。商工会でもそれは仕方がないということにはなっているが。寄島・金光がなくなると鴨方ひとつになる。会員がみんな歳をとっている中で、鴨方まで行くのは大変という話もあった。しかし財政難ということで、仕方がないことなのかと感じている。</p> <p>もうひとつ、商工会でもまちづくりをもっと発展させたい。新聞のチラシで矢掛の朝市を見たらすごく盛況で、何人かで話をしてみたら、金光町のまちの中で、朝市をしたらどうかという話が出た。こういったことは商工会だけではなく、市のほうもお手伝いができるということがあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>今後支所については、1年前に基本計画をつくり、数年の内に、鴨方というのではなく本庁舎に職員をほぼ集約し、浅口市の本庁で市内全域をみていこうということが基本スタンス。金光・寄島支所の職員が0人になるという話ではない。職員はいるが、基本的には</p>

	<p>日々件数の多い窓口業務を残す。例えば、産業土木や福祉は本庁へ集約し、そこから現地で出向いて相談事とか現地の確認をさせていただく。本庁機能を強化することにより市全体を均等にやっていく。今は金光・寄島支所に支所長がいて、それぞれの分野で市民の方と交流しているが、金光支所に行ってください、また難しい案件は本庁へ行ってくださいと、2重の手続きとなったりしているのです。本庁で専門的に対応し、現地へも出向くようにしていく。支所は確かに機能としては縮小するが、市民サービスの低下とならないよう考えてはいる。今までにいろいろなお気持ちは聞いている。今の話も当然である。それぞれ改善していく。</p> <p>まちづくりについては、特産品などやってはきている。近隣市町もいろいろとやっている。浅口市としても、商工会の会員さん意見であるので、これからもパイプは太くして、浅口市の知名度上げていきたい。浅口市に来てもらうためには、行政だけ、商工会だけではできないので、これまで以上にパイプを太くしてやっていきたい。</p>
山内委員	<p>16番の受益者負担の見直しで、一時0円から100円上がりましたが、今お風呂の値段はいくらになっているか。</p>
事務局	<p>値上げをして現在200円。</p>
山内委員	<p>健康福祉センターをよく使うと、決まってお風呂用具をもって来られる方が何人かいる。一部の人だけに恩恵ではありませんが、一部の人だけかなと思っていたが、西日本豪雨での真備の災害で受け入れをした。真備の友人たちが鴨方の人たちには本当にありがたかった、お風呂があつてやっと思をしたと何人もの方に言われた。</p> <p>浅口市でも災害が270箇所、こういったこともあるから、個人的にはお風呂は残しておかないといけないと思うが、その割にしては都市部のお風呂屋さんが高齢化もあつてだんだん衰退していく中で、200円という単価は大変ありがたいと言えばありがたいが、まったくお風呂に行けないような方にとっては、恐縮ですが、独居老人とか高齢化が進み、車にも乗れない方が増える中で、そのような方になかなか還元できていない気がする。個人的には、なるべく早めに料金を上げてよいのではないかと思います。</p>

事務局	2階のトレーニングルームについても健康増進、今後の介護予防とかいろいろなことにつながっていく上ではすごく大事なことは思うが、それでもあそこはいくらか。
山内委員	市内の方で200円
事務局	決まった方が使うようにどんどんなっているという声も聞く。仕方がない部分もあるが。健康推進課とか包括支援センターがいろいろな運動クラブをつくり、小字単位でもいろいろなサロンで運動クラブを立ち上げている中で、あそこを利用するのは、高齢者の方ばかりではないと思うので、トレーニングルームに行ける人、特に若者ですね、もう少し金額を100円なり150円なり上げるなどがないのではないか。1年1年しっかりと考えたほうがよいのではないか。
事務局	すいません。トレーニングルームは値上げをしていて300円、訂正させていただく。
山内委員	市外は。
事務局	700円
山内委員	私は個人のところのジムに入っていますが、入会金が6,000円で1日30分の利用で、利用の有無にかかわらず月6,000円、30日で割れば、1日200円とはなりますが、それでももう少し値上げをしてもよいのではないか。
事務局	お風呂も300円となっていた。訂正させていただく。申し訳ない。せつかくですので、現状を申し上げますと、お風呂が年間維持管理含めまして年間約800万円かかっています。利用者からいただいた料金は年間約400万円から450万円で、収入だけではまかなえていない。 トレーニングルームについても、金額的にはお風呂と同様となっており、収入だけではまかなえていないのが現状である。 先ほど言われたように、使う人、使わない人の費用負担、受益者負担の考え方から、貴重なご意見をいただいたので、検討していき

<p>亀高委員</p>	<p>い。</p> <p>ふるさと納税について、これは非常に矛盾のある制度。賛成する方、反対される方いろいろおられる。これ寄附額が7千万円とあるが、これは東京首都圏の方が浅口市の特産品を買われて寄附が入ったということもあるでしょうし、浅口市の方がよそのものを買われれば、税収が下がるのでしょから、その辺りのことも考えて、この7千万円はトータルした額か、プラス・マイナスして7千万円なのか。そもそもの構造的に問題のあるふるさと納税をこれからもより積極的にやるという考えであるか。</p>
<p>事務局</p>	<p>収入のトータルが7千万円ということになるが、総務省から3割返しなさいと出たので、浅口市も30年度はかなり減っており、実は3千万円程度と激減となっている。全国共通ではあるが他の一部の自治体が3割以上を設定することにより、魅力ある方に流れていってしまう。7千万円から委託料・返礼品代などいろいろなものを差し引くと、実質的には市の収入は約1千万円となる。全国見ても同様だが、しかし、しなかったら市に何も入って来なくなるので、例えば50万円でも100万円でも、500万円でも収益を得るためには、やる必要があるし、あとは特産品のPR、これはやはり重要な機会ですので、これをせずには他の方法でやるというよりも、これもひとつの手段として、活用すべきとは思う。しかし、競争しないといけないので、現在100種類ぐらいの返礼品を用意しているが、もっと地域の業者の方からアイデアや提案の声があれば取り入れていきたい。委託料も安くないので、続けるかのという意見もあるが、1千万円という黒字ではあるので、災害でお金もかかるので判断は必要だが、様子を見ながらやっていく。</p>
<p>亀高委員</p>	<p>税収が減った部分も併せて1千万円か。</p>
<p>事務局</p>	<p>はい。</p>
<p>中村会長</p>	<p>時間も少なくなってきたので、議事（2）第3次浅口市行政改プラン改定「事務事業追加」の説明を事務局に求める。</p>

事務局	議事（２）について説明
佐藤委員	説明に浅口市は取組が遅かった、議会にも責任があるが、企業版のふるさと納税の窓口、事業実施主体は。
事務局	30年度に地域再生計画を策定し、すでに始めているところである。この度は、観光目的の寄附を受け付けるというもので、担当課は産業振興課となっている。ただ、企業版ふるさと納税の制度自体は地方創生の事業として行われており、地域再生計画の策定は政策課、目的の担当は産業振興課となる。
奥委員	自動販売機の入札、これはされればよいと思うが、缶の回収を契約できちんとやって、できなかつたら撤退してもらうような条件をつけてほしい。なぜかと言うと、現状ひどい、他から入れるというのもあるのですが、管理できていない。公共のところなので、きちんと回収のほうは、していただきたい。このことを契約に入れてほしい。もっと台数も増やして、しっかりと収入を上げるよう検討もお願いする。
事務局	しっかりと契約書に書くようにしていく。今現在できていないところも確認する。
亀高委員	このふるさと納税について、行政ではどのような議論が行われているか。例えば収入が1千万円と言われているが、これは安定していない。多いときには5千万円となるのか、少ない場合はマイナスとなる場合があるでしょうから。この安定しない財源に頼って浅口市として予算を組む、これは国がしたから浅口市もではなく、国の制度であっても批判的な見方もあるので、批判的な見方からこの制度をどう位置付けるかが大事。お金をもっている人は、たくさん買って税金が下がる、一方お金をもっていない人は、買えないといった格差が出てくる。だからそういったいろんな意味でこれは問題があると思うので、どういった議論がされて、もしこれをさらに発展させていくようなことがあるのなら、コミュニティではないですが、現場の目線に立って、これをどう位置付けているのか。

<p>事務局</p>	<p>余談で、ふれあい号の運転・交通違反 止まれで止まっていない 停止線でいったんとまってから徐行で前へ出ないといけない 止まっていない。指導をよろしく。</p> <p>ふれあい号についてはあってはならないことなので、業者へ指導を徹底する。</p> <p>ふるさと納税については、総合的な議論、数千万入っても経費がかかっていますので、まるまる入るわけではない。その寄附を基に予算を組むということ大変難しいと考えている。その時に入ったお金は、例えば天文のまちに活かしてください、子どもの学校教育に活かしてください、そういった時に予算を振り分けるので、1つのものに何千万はありえないので、これは総合的に考えていくことになる。今後、続けていくかどうかについては、昔に比べて関心が薄くなってきている中で、これを本当に行政がやるべきなのかどうか、産業振興の視点や、特産品のPRとしては欠かせないので、このようなことも考えながら、浅口市の魅力在全国にPRしていくためにはひとつの手段という話をしてはいますが、これからも検討を行っていききたい。</p>
<p>定金委員</p>	<p>最後に一点だけ、これ要望として。今まちづくりとして浅口市は天文台を、ひとつのイメージ戦略として浅口市を売っていこう、これは戦略だと思うのだが、当然行政経営ですから、投資に対するリターンがあるわけです。よって浅口市として天文台にこれだけ予算をかけました、それに対して経済波及効果とか、これは想定となるでしょうが、それを明確にして市民の皆さんに示していかないと、一生懸命天文台のことばかり言っているが、どうなっているのかということに陥ってしまう。やはり天文台戦略としてこれだけのことをしている投資、経済効果を含めてしっかりやっていますよPRをしないと、曖昧で分かりづらい。天文台をやっていることはよく情報が入ってくるが、それがどうしたの、土産物がこれだけ売れたみたいな話ではなく、どれだけ市のイメージが上がった、経済効果が出ているのか、指標的に出す。定量化できるものばかりでもないでしょうが、こんな成果が出ていますみたいなことはPR戦略として行ってはどうか。せっかく重要な戦略であるのだから、私は天文台を売るのは大賛成、浅口市はどういうところと聞かれて、天文台が</p>

	<p>あるよと言いたい。それと金光の植木まつり、寄島のかき、まさに例の浅口市の3つのシンボル。しっかり投資に対するリターンを明確にやっていけば、それが経営。意見としていった。</p>
<p>事務局</p>	<p>まさにこれからやっていかなければいけない必要なこと。協力隊員が、「星と海のまちあさくち」というキャッチフレーズに魅かれて来た。星、宇宙、自然というのを後世のためにも大事にしていきたい。海とか田園地帯とか浅口市は小さいですがその特徴が入っているので、ミックスしてよい印象を外に発信していきたい。それを出すことによって定住、移住とか転入とかつなげ、また若い人が出ていかず浅口市に住むように、総合的に福祉や教育を含めてやっていくための、入口部分のイメージ戦略と考えている。</p>
<p>定金委員</p>	<p>ぜひとも頑張ってもらいたい。</p>
<p>中村会長</p>	<p>議事（3）その他の説明を事務局に求める。</p>
<p>事務局</p>	<p>議事（3）について説明（事務連絡のみ）</p>
<p>中村会長</p>	<p>皆さん貴重なご意見をいただきありがとうございました。資料の特記事項のコメントのところは、何人来たとか、どれだけあがったではなく、どれだけ成果が上がったということが本来は示されてしかるべき。これやって何人来ました、起業できました、これだけ効果が上がりました、そういったところを出すのが、分かりやすいと思う。皆さん人材育成のことで非常に意見をいただいたが、なかなか提案をすることはハードルが高いので、どちらかと言うと、職員の方が普段思ったこと、感じたことを、簡単なポストイットのようなもの、ワークショップではありませんが、そういったものを頻繁に開いて、こんな課題があるよとかを月に1回程度やって、そこから部署・係から上げていってもらおうというやり方もあるのではないかな。なかなか内部で切磋琢磨しないと、外部の研修行ったくらいでは知識は増えても、実践力はつかないので、人材育成のところは非常に大事と感じた。</p> <p>では今日はこのあたりで、議事をしめたいと思う。事務局にお願いする。</p>

事務局	それでは、閉会にあたり井上副会長にあいさつをお願いする。
井上副会長	<p>参集の礼。いろいろな要望がありましたが、市においても、議会の方もいろいろと議論して、そして市民のニーズに答えていくために頑張っていく。今後とも皆さんのそれぞれのお立場でご協力をお願いしたい。</p> <p>【閉会】 15 : 15</p>